

## 「奈良のむらづくり協議会」設立の趣旨

奈良県のこれからの考えると、観光・交流の拡大が重要な政策のひとつである。奈良県は、この15年間で、観光客を約400万人も減少させた。その主たる原因は、歴史文化的な観光資源のみに頼ってきたことである。従来型ではない自分だけの観光・交流(オルタナティブ・ツーリズム)を求めている都市住民に対して、各地域の魅力や資源、もてなしサービスを提供できていない状況にある。この一方で、各地域は、都市住民をひきつけ得る優れた地域資源をもちながら、これを活かす方策をもちあわせず、地域活力を低下させている。具体策をもちあわせないままに、「美しい国づくりの根源は地方の活力増進にある」と言っているような、悠長な状況にはない。

各地域におけるEcological Development ((1)地域の資源、即ち、生物・生態系、伝統技術、生活文化資源、歴史文化資源等を生かし、(2)地域の主体性と地域資本によって、(3)現世代の満足を充たしつつ、生きとし生けるものすべての将来世代に引き継ぎ得る開発)が喫緊の重要課題となっている。しかしながら、各地域は、地域資源をいかに発掘・活用するのか、他地域からいかに人を呼ぶのか、もてなしサービスをいかに行うのかなどといったことについて、ノウハウをもちあわせていないのも現実である。

そこで、住む人と訪れる人の間に信頼関係が醸成され、各地域の自律発展につながる「むらづくり」を進めていくために、奈良にこだわりをもち、積極的な活動を展開されている方々の総力を結集した「奈良のむらづくり」プロジェクトを実行することとする。

2007年2月2日 奈良のむらづくり協議会設立発起人

## 奈良のむらづくりの促進に関する事業

### 1. 奈良のむらモニターツアー

奈良東部・中部の「自然」「ふるさと」に焦点を当て、「従来の奈良」のイメージを変える新しい切り口の「奈良旅行」を全国に向けて提案する。「歴史」は、他地域に真似できないプラスαの魅力として位置づけ、ターゲット別にオリジナルの滞在型のプランを準備、3パターン4コースのモニターツアーを実施する。

### 2. 奈良県東部・中部の中山間地域における工房街道づくり

旧室生村から川上村にかけて、伝統産業・地場産業の工房のみならず、木工や陶芸など様々な分野のデザイナーや芸術家が移住し、工房が多く立地(工房調査を実施し、様々な分野の約100の工房を確認)しており、「工房街道」「もてなしのむら」として認識してもらえるように、工房情報の発信、工房に関連する各種イベント等を開催することにより、都市住民の来訪を促進する。

### 3. 交流の促進

奈良にこだわりをもち、積極的な活動を展開されている方々の総力を結集するための交流を促進するためのイベント等を開催する。